

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「生徒一人ひとりが生き生きとする学校づくりをめざす！」  
「提案型教員集団づくりに努める！」  
「生徒の現状をさらに深く把握し、前年度の成果を踏まえ、普通科改革校としての地歩を固める！」

- 1 これからの社会を生き抜く、自尊感情や社会性豊かな幹の太い生徒を育成するとともに、充実した質の高い授業を行う。
- 2 特色づくりに努め、普通科改革校としての地歩を固める。
- 3 保護者・地域と連携を密にとり、信頼され、求められる学校教育活動を展開するとともに、高校 3 年間を見通したキャリア教育体制を確立する。

## 2 中期的目標

## 1 幹の太い生徒を育成し、充実した質の高い授業を行う。

幹＝人間力（あいさつ、辛抱、思いやり、コミュニケーション力、問題解決力、洞察力、人間関係力、学力、規範意識、成功体験、自尊感情、自立心）

- (1) FCK、自治会、生活指導部、学年、人権教育研究委員会が連携し、すべての教育活動を通して、幹の太い生徒の育成に努める。
  - ア 人間力の育成： 学校内外でのさまざまな教育活動を通して、成功体験を積み重ね、規範意識の向上・支えあう集団づくり・自尊感情の高揚を図る。
  - イ 生活規律の確立： あいさつの励行、遅刻・欠席の減少、身なりを正す、毛染め・ピアスの一掃など、生活規律の確立に取り組む。
  - ウ 人権教育の推進： いじめ・差別をしない、させない意識を醸成し、さらに安心・安全な学校づくりに努める。
- (2) 「わかる授業」から「充実した質の高い授業」をめざし、授業公開・授業評価を通して、授業改善に取り組む。
  - ア 授業規律の確立： ベル着・机上整理・授業集中を徹底させる。
  - イ 習熟度別・進路別少人数授業の拡充： 英語は 2 個学年に拡充、数学は継続実施し、一人ひとりの生徒に対して、きめ細かな授業を展開する。
  - ウ 授業公開・研究協議： 教務部、教科が互いに連携し、教員授業見学会と研究協議を推進する。また、授業を保護者・地域に公開する。
  - エ 教室の ICT 化： 「平成 27 年度学校経営推進費事業」と P T A・同窓会の支援により全学年の授業教室に単焦点プロジェクターと書画カメラを導入し ICT 機器の活用を進める。
  - オ 授業満足度： 各種授業アンケートを実施する。生徒の声をしっかりと把握し、適宜教員にフィードバックし、生徒の授業満足度の向上に努める。
- (3) 学習時間を確保する。週 2 回の Buzz 学習、土曜学習室・講習、勉強合宿、平日講習を充実させ、国公立大 20 人、関西大・同志社大 100 人の合格をめざす。

## 2 特色づくりに努め、普通科改革校としての地歩を固める。

- (1) e（エスペランサ＝希望、education＝教育）コース： 体験学習・高大連携・発展教科の充実を図り、e コース連絡会で定期的に検証する。
- (2) 特別講演会： 国際的に活躍をしている人を定期的に招いて、特別講演会を実施し、生徒が自分の将来を考える動機付けを行う。
- (3) 国際交流・国際理解教育： 交換留学や海外視察団の受け入れ、海外語学研修を積極的にに行い、異文化理解と国際感覚を高める。
- (4) 資格取得： 実用英語検定を 1 年生は全員受験とする。2・3 年生は全員受験を推奨する。
- (5) カリキュラムの見直し： 生徒に必要な教科・科目について、河南改革機関 FCK（フューチャーセンター河南）で抜本的見直しを図る。
- (6) 全学年で勉強合宿を継続実施、その他学習時間の増加： 勉強合宿・週 2 回の Buzz 学習・土曜・平日補講習・サポート講習を充実させ、学習時間の増加を図るとともに、家庭学習を促進する。特に、3 年生を中心に昨年同様の講習の充実を図る。
- (7) 防災： 南海トラフ大地震を想定した避難訓練マニュアル・大地震発生時アクションカード・生徒引き渡し概要を充実させる。また、安全で安心な校内環境の整備に努め、災害に強い学校づくりに取り組む。
- (8) 環境教育・国際貢献： エコキャップ運動をさらに拡充し、環境問題への理解を深め、ポリオワクチンの供給などを通して、国際貢献に取り組む生徒を育成する。
- (9) 地域連携・ボランティア活動： 地域の人材・施設を積極的に活用し、保・幼・小・中・高・専・大連携や企業連携を活発に行う。
  - ア 生物医療コースの生徒の富田林病院での実習
  - イ 大阪大谷大学 1 日授業体験（2 年生全員）
  - ウ e コース生徒の川西幼稚園での保育体験
  - エ 生徒主体の河南講座
  - オ 運動系・文科系クラブによる中学生との合同練習
  - カ 和太鼓部・吹奏楽部の公演活動
  - キ 自治会生徒による赤い羽根募金や災害地への募金活動 など

## 3 生徒と保護者の思いを的確に把握し理解を深めるとともに、河南高校のキャリア教育体制を確立する。

- (1) 面談の充実： 全生徒・保護者との面談を拡充するとともに、家庭訪問を積極的に行う。
- (2) 課題を抱える生徒の支援： 定例の支援委員会を充実させるとともに、学年との連携をいっそう図り、生徒情報の共有化と組織的な支援を促進する。
- (3) 中学校訪問・中高連絡会： 中学校訪問・中高連絡会を新たに開催するとともに、教職員研修を通して「生徒・保護者と向き合う」教職員集団づくりに努める。
- (4) キャリア教育体制の確立： 進路・学年・キャリアカウンセラーが連携して本校独自の「キャリア教育ワーク集」を充実させ、高校 3 年間を見通した系統的なキャリア教育指導体制を確立する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>■学校教育自己診断の分析 (数字は「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた肯定回答の比率)</p> <p>学校教育自己診断生徒結果は、25 項目中 20 項目で、昨年度以上の評価となった。保護者結果は、20 項目中 9 項目が、昨年以上の評価となった。生徒・保護者の評価減少項目の減少幅は、わずかだった。</p> <p>生徒は、「部活動に積極的に参加している」(92%)、「行事は楽しく行えるよう工夫されている」(83%)と、クラブ活動・学校行事について肯定的な意見が多い。また、多くの生徒が「学校へ行くのが楽しい」(80%)と感じており、「将来の進路や生き方について考える機会がある」(86%)、「学校生活に対する満足度」(82%)も高い数値を示している。</p> <p>保護者は、「子供は学校行事に積極的に取り組んでいる」(90%)、「学校での出来事・友達・進路などについて、子どもと話す機会を持っている」(92%)、「学校の雰囲気が良く、子供が生きいきとしている」(89%)、「子供は高校生活全般に満足している」(89%)、「学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である」(86%)と、それぞれ満足度が高い。</p> <p>【学習指導等】 (今年度の数値 ← 昨年度 ← 1 昨年度) 「分かりやすい充実した授業」をめざし授業力向上に取り組んだ。 生徒は、「先生の教え方には、様々な工夫がされている」(72%←67%←60%)、「全体的に授業は分かりやすい」(65%←58%←57%)、「授業の進度が適切である」(69%←63%←60%)となり、それぞれ5%以上上昇した。 11月、2週間の公開授業期間中に各教科から1名代表を出して授業を行った。各教科会で授業見学後、研究協議するとともに、感想記入票を授業者に手渡すことにより、当該教員および他の教員の授業力とモチベーションを高めた。 定期考査の成績不振者を対象にサポート講習を実施して3年が経った。この結果、「授業以外の講習や補習が充実している」(69%←65%←62%)となった。該当生徒の保護者にはサポート講習を通知し、協力を仰いだ。また、部顧問にもクラブ別成績不振者一覧を渡し、指導を入れてもらった。実施3年めで、組織的な生徒サポート体制が定着してきた。 一方保護者からは、「成績面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」(79%←65%←62%)という回答を得た。 引き続き、さらに改善していきたい。</p> <p>【進路指導等】 進路指導部と各学年が連携し、外部講師を招き、生徒・保護者対象の講演会を数多く開催した。また、進路情報も同時に積極的に提供した。 生徒アンケート結果では、「将来の進路や生き方について考える機会がある」(86%←82%←80%)と高く、「学校は進路情報をよく知らせてくれる」は(81%←77%←77%)となった。 保護者は、「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」(76%←77%←76%)と回答している。</p> <p>【生活指導】 生活規律の確立をめざし、特に遅刻の縮減に力を入れた。 年2回の遅刻防止旬間や生活指導部・担任の指導強化により、4月から12月までの全生徒の遅刻数は<b>1,955</b>件となり、<b>250</b>減となった。 また、あいさつ運動も生徒自治会役員が中心となって積極的に取り組んだ。「生徒指導面で学校の方針に共感できる」では、保護者(82%←80%←73%)、生徒(67%←60%←59%)から肯定回答を得た。</p> <p>【人権教育・防犯防災】 「人権の大切さについて学ぶ機会がある」は、生徒の肯定回答が(75%←80%←61%)となった。「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」が(76%←73%←62%)と上昇した。「河南高校で人からかわれて嫌な思いをしたことはない」は(75%←77%←71%)となったが、否定回答も一部にあることから、全教員の目配り・気配りが必要である。 「地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の保護者の肯定回答が(79%←83%←72%)、生徒が(70%←65%←61%)となり、学校の取り組みが浸透しつつある。</p> <p>【保護者・教員比較】(保護者回答数 585、教員 30) 保護者の肯定回答率が全体に教員よりも低い中、その隔たりが20%以上の項目は以下のとおり。 ① 「保護者からの相談があれば、学校はすぐに応えている」(55%、90%) ② 「子どもは授業が分かりやすく楽しいと言っている」〔保〕(52%) 「生徒は授業に意欲的に取り組んでいるようだ」〔教員関連項目〕(84%) ③ 「テストの得点だけでなく、課題の提出や出席状態から学習の評価を行っている」(77%、100%)</p> <p>また、保護者肯定回答が教員より高いものが2項目あった。 ① 「生活指導面で、学校の方針に共感できる」(82%、76%) ② 「地震や台風などの対応について、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」(79%、74%)</p>	<p>■学校協議会 第1回 平成 27 年 5 月 21 日 【質疑応答・協議】 ○(教員)カリキュラムの細部の検討を始めようとしている。今年の入試についても昨年までと同様、倍率は高かった。 ◎(協議会委員)男女比はどのようになっているか? ○67期は推薦入試に偏らず、一般入試にウェイトを置き3月まで頑張った。センター利用で私大に合格したものも多い。センター試験の受験者を全体の4割ぐらいにしたい。eコースの最初の卒業生は半数が教育系の学部に進学した。 ◎大教大で合宿をしたこともある。行くだけでも刺激になるので検討してみてもよいのでは。入試課で学校を案内することも可能である。図書館で勉強する学生や、体育館・グラウンドで一心不乱にスポーツをする学生をみると進学したいという気持ちが湧いて来る。だんだん教員採用も厳しくなってくるが、eコースが学校の売りになる。ボランティア部などを作って地域活動に参加するなどすると、A0入試にも有利にはたらく。実際に書類に記入する欄もある。 ◎選挙権の18歳引き下げについて学校で何か動きはあるか? ○これといった動きはないが、BUZZ 学習で社会情勢などを取り上げ、社会に出て通用する知識・教養を身につけている。</p> <p>第2回 平成 27 年 10 月 28 日 【質疑応答・協議】 ○6月に実施した授業アンケートの生徒評価の平均値は上昇傾向にある。 ◎平均は平均に過ぎない。平均以下の教員(30人)の底上げはもとより、評価の高い教員(平均以上42人)をさらに引き上げることが大事。先生方はアンケート結果を生徒にどう返しているか。 ○教員はコメント欄の内容については授業の中で生徒に返している。管理職は管理職で授業見学し、授業アンケート結果を参考に改善指導を行っている。 ◎授業アンケートの目的は授業を改善し、個々の教員の力量を高め、教員集団の教育力を高めることにある。結果を教科や学年にフィードバックし、教科や学年で改善する取り組みを強化することが大切である。若い教員を集団の中で、みんなで育てていく学校の体制をさらに整えてほしい。 ◎生徒意識調査で学習に苦手意識を持つ生徒が多い。また、学習で「理解できない」生徒が3分の1いるが、どう対応しているか。 ○サポート講習や数学、英語で習熟度別少人数展開授業を行っている。また、学習意欲を高めるために、英検全員受験、勉強合宿などの取り組みもしている。 ◎来年度の入試制度の変更の影響はあるか。 ○アドミッションポリシーや絶対評価の導入により中学校は多忙になっているが、高校では大きな影響はない。今年は多くの塾を回って河南のアピールに努めたが、本校の取り組みはほとんど知られていない。実績を示すと驚かれた。 ◎スマートフォンについてはどう考えているか。 △(自治会生徒)使いすぎると、しないといけないことができないしコミュニケーション力もつかない。便利な側面もあるが、ないほうが幸せかもしれない。 ◎18才問題は話題になっているか。 △クラブ内で話をしたことがあり、選挙権以外のお酒や煙草が18歳に引き下げられないのがなぜかわからない、と話している。</p> <p>第3回 平成 28 年 1 月 25 日 【質疑応答・協議】 ○第2回授業アンケートの結果が出た。教員間でも各教科公開授業を行い、同一教科の教員全員が見学し、その後協議を行うなどの振り返りをしたこともあり、全体に向上している。 ◎生徒が授業をしっかりと受けると、教師側もさらに頑張ろうと好循環が生まれる。授業の様子が変わって来ている今がチャンスである。授業公開は刺激になり、意欲も高められる。対話しながら進める授業へステップアップしてもらいたい。環境が整ってきている。 ○PJや書画カメラ等の機器を活用できない先生もいると思うが、使っていない先生が悪いのではなく、機器を使えるようにする環境を整えることが大事だ。 ◎各学期の初めに研修をしている。誰でも使えるようにしていきたい。1/8にも書画カメラの活用について講習会を開いた。書画カメラは便利なので取り合いになっている。 ○学校教育自己診断はこの2・3年で肯定回答が増えているが、保護者の肯定回答が低い。 ◎学校改善のヒントは、教職員と保護者の回答のずれが大きいところにある。保護者と生徒との乖離もあるが、情報発信をどうしていくか、工夫や改善をすることにアンケートの意義がある。 □(初任者3人)戸惑いもあったが、生徒が前向きで先生方もすぐにアドバイスがいただける。伸び伸び仕事をさせてもらっている。そんな環境に感謝している。4月からは担任として生徒としっかり向き合っていきたい。 ◎頑張ってください。(拍手)</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 幹の太い生徒の育成、充実した質の高い授業	<p>(1) 幹の太い生徒の育成</p> <p>(2) 充実した質の高い授業</p> <p>(3) 国公立・私立の合格者増</p>	<p>ア 生活規律の確立： あいさつの励行、遅刻・欠席の減少、毛染め・ピアスの一掃に努める。年間遅刻件数を2,000件以内、自治会生徒役員によるあいさつ運動を10回以上実施する。</p> <p>イ 人権教育の推進： いじめ・差別をしないさせない意識を醸成し、安全で安心な学校づくりに努める。学校教育自己診断(生徒)の人権肯定回答率80%以上を堅持する。</p> <p>ア 授業規律の確立： ベル着・机上整理・授業集中を徹底させるため、教員や管理職が校内巡回を積極的に行い、また、生徒集会などで注意喚起し、意識の向上を図る。</p> <p>イ 習熟度別・進路別少人数授業の拡充： 数学Ⅱ(2年次4単位中2単位)、英語Ⅱ(2年次4単位中2単位)とBE(1年次2単位)で、全クラス1クラス2展開の授業を実施し、苦手意識のある生徒を減らし、生徒の授業満足度を高める。</p> <p>ウ 授業公開・研究協議： 6月のPTA総会に保護者対象の授業公開を実施する。11月に2週間行っている教員間の公開授業を継続実施する。また、アンケートも行う。</p> <p>エ プロジェクター少なくともあと10教室に設置する。</p> <p>ア 国公立大学、関西大・同志社大の合格者を増やす。</p>	<p>ア 遅刻件数2,000件以下、あいさつ運動10回以上。(H26年度11回)</p> <p>イ 学校教育自己診断の人権肯定回答率80%以上を堅持。</p> <p>ア 授業遅刻・授業中の居眠り・机上のペットボトルなどの縮減に向け、校内巡回(毎日2回)・授業観察などを通して改善努力。</p> <p>イ 進路別少人数授業の実施、生徒の苦手意識の解消・授業満足度の向上。(学校教育自己診断の授業項目5%アップ)</p> <p>ウ 教員の授業公開(30授業以上)、とアンケートの職員会議でのフィードバック。</p> <p>エ PJが設置できたか。</p> <p>ア 国公立大学20人、関西大・同志社大100人</p>	<p>ア 2514件で、昨年より281減(10%減)。あいさつ運動12回。(△)</p> <p>イ 向上した。関連項目の肯定解答率は以下(△) 「人権の大切さについて学ぶ機会がある」 75% ← 80% ← 61% 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」 76% ← 73% ← 62% 「河南高校で人にからかわれて嫌な思いをしたことはない」 75% ← 77% ← 71%</p> <p>ア 改善した。(○)</p> <p>イ 大きく向上した。関連項目の肯定回答はそれぞれ5%以上改善した。(◎) 「先生の教え方には、様々な工夫がなされている」 72% ← 67% ← 60% 「授業の進度が適切である」 69% ← 63% ← 60% 「全体的に授業がわかりやすい」 65% ← 58% ← 57%</p> <p>ウ 6月のPTA総会や9・11月の学校見学会で保護者・中3生を対象に授業を公開した。また、11月に2週間教員間授業見学会を実施。60授業にのべ46人の教員が参加。教科内協議を図るとともに授業感想票を授業者へフィードバックし、互いの授業力向上に努めた。(◎)</p> <p>エ 全学年30教室に配置した。学期毎に説明会を行い、教員への普及に努め6割以上の教員が使うようになった。(◎)</p> <p>ア 国公立13人、関西・同志社大110人。(○)</p>
2 特色づくりの推進、普通科改革校としての地歩固め	<p>(1) 特色づくりの推進と改革校としての地歩固め</p>	<p>ア eコース： 体験学習・高大連携・発展教科の充実を図り、eコース連絡会で定期的に検証する。68期生(eコース2期生)が卒業時には、国公立大学や教育系大学への進学者80%以上となるよう努める。</p> <p>イ 特別講演会： 世界で活躍する人を年に1回招き、生徒への動機付けを行う。(オリンピックのメダリスト、同時通訳者、各国の領事など)</p> <p>ウ 国際理解教育・英検資格取得： 国際交流委員会が中心となり、交換留学(受入・派遣各1名以上)や海外視察団の受け入れを積極的に行う。英検は、1年生は全員受験させる。2・3年生は全員受験を推奨する。</p> <p>エ 学習時間の確保と家庭学習の促進： 週2回のBuzz学習や土曜学習室、講習・勉強合宿、平日の講習補習、サポート講習を充実させ、学習時間の増加を図る。</p> <p>オ 防災： 避難訓練マニュアル・大地震発生時アクションカードなどを充実させる。また、ロッカー固定や防災グッズの購入、備蓄米の確保に努め、災害に強い学校づくりに取り組む。</p> <p>カ 環境教育・国際貢献： エコキャップ運動をさらに拡充し、環境問題への理解を深め、ポリオワクチンの供給などを通して、国際貢献に取り組む生徒を育成する。</p> <p>キ 生徒主体の地域連携の強化。</p>	<p>ア 国公立大学・教育系大学への進学者80%以上。</p> <p>イ 特別講演会の実施、生徒への動機付け。(アンケートで把握)</p> <p>ウ 英検準2級合格者100人以上、海外からの訪問団の受け入れ、交換留学(受入・派遣)が拡充できたか。</p> <p>エ 昨年以上に充実が図れているか。</p> <p>オ 各所にアクションカードを掲示、ロッカー固定・必要な物品の確保。</p> <p>カ ユニセフと連携した多くのポリオワクチンの供給。(40人分以上)</p> <p>キ 河南講座(わくわく理科教室、パソコン教室、美術教室)を富田林市教委や地域の自治などと連携して生徒主体で実施できたか。</p>	<p>ア 73%。(○)</p> <p>イ お天気キャスターの片平敦さんを招いて、「夢をあきらめない」というテーマで講演会を実施した。片平さんの素敵な講演に生徒は聞き入った。生徒アンケートで、「今までやってきたことが今の自分を作っている。無駄なことは一つもない」「夢を諦めず努力を続ければ、必ず夢は実現できる」「これではダメだと気付いた時が努力の始まりだ。努力をするのに遅すぎるということはない」などの片平さんの言葉に、共感する生徒が多かった。12月中旬のこの時期に、生徒向けに実施する意義があった。(○)</p> <p>ウ 英検準2級以上の合格者丁度100人。アメリカ合衆国アリゾナ州の高校生18人を6月上旬1週間受け入れ、国際交流と相互理解を深めた。また、狭山ロータリークラブと連携して1年交換留学(2人)、英国・ドイツ3週間交換留学(4名)を実施した。(○)</p> <p>エ Buzz学習を週2回のペースで行い、18才選挙権年齢の引き下げもあり、社会に出て通用する知識や教養を身に付けた。その他も、参加人数の増加や学習時間の拡充が図れた。(◎)</p> <p>オ 徹底した。(○)</p> <p>カ 生徒保健委員が中心となり生徒・保護者・近隣住民から21,200個回収し、ポリオワクチン26人分の供給を行った。生徒はCO2削減など環境問題への理解を深めるとともに、ポリオワクチンの供給を通じ国際貢献に寄与した。(△)</p> <p>キ 予定の河南講座に古典講読を加えて行った。どの講座にも生徒が関わり、参加者に好評であった。生徒の自己有用感や河南高校に対する帰属意識が高まり、めざす学校像の1「自尊感情や社会性豊かな生徒の育成」につながった。(◎)</p>

## 府立河南高等学校

<p>3 生徒・保護者の思いを的確把握、キャリア教育体制の確立</p>	<p>(1) 生徒・保護者の思いを的確把握</p> <p>(2) キャリア教育体制の確立</p>	<p>ア 面談の充実・生徒支援： 面談などを積極的に行うとともに、中学校訪問などを通して、生徒情報の共有と生徒支援に努める。学校教育自己診断の「保護者から相談があれば学校はすぐに応えている」や「学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である」などの保護者の肯定回答をさらに向上させる。</p> <p>ア キャリア教育体制の確立： 進路・学年・キャリアカウンセラーなどが連携して本校独自の「キャリア教育ワーク集」を充実させ、高校3年間を見通した系統的なキャリア教育体制を確立する。</p>	<p>ア 学校教育自己診断の保護者肯定回答5%の向上。</p> <p>ア 本校独自の「キャリア教育ワーク集」の充実。</p>	<p>ア 肯定解答は以下のとおり。(△)</p> <p>「保護者から相談があれば、学校はすぐに応えている」 55% ← 57% ← 49%</p> <p>「学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である」 86% ← 89% ← 81%</p> <p>「学校は子供に生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」 72% ← 72% ← 58%</p> <p>「地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」 79% ← 83% ← 72%</p> <p>ア 完成した。(○)</p>
-------------------------------------	--	---	--	--